

島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：青山悦子
(松江市立島根中学校)

編集：情報部

VOL.57 2016.8.8 (夏祭り号)

発行責任者 蘿 恵 (川本小学校)

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>



【目次】

- ▶ 島事研について考える年に(会長)
- ▶ 研究部・研究委員会の取組
- ▶ 島事研組織等について
- ▶ 島根県教育庁総務課に勤務して
- ▶ 研修のご案内
- ▶ 邑南町の学校事務共同実施について
- ▶ 人権コーナー
- ▶ まんが「フーちゃん」
- ▶ 編集後記



■ 島事研について考える年に ■

会長 青山悦子

今期、会長を努めさせていただくことになりました、松江市立島根中学校の青山悦子です。どうぞよろしくをお願いします。

島事研では、昨年度「島事研ビジョン2015」「第五次研究中期計画」をスタートさせ、今年度は2年次となります。島事研のミッションを「島根の未来を切り拓く子どもたちの豊かな育ちを支援する」とし、「学校力向上につながる学びの環境をデザインする学校事務職員」をめざす姿とし、研究大会やセミナーを柱に、各事業部(研究部・研修部・情報部)を中心に取組を進めています。

平成31年度には、第51回全国公立小中学校事務研究大会(岡山大会)で分科会発表をすることになり、今年度、研究部を中心として研究委員会を新たに立ち上げました。出雲市と浜田市には研究モニター地区としてご協力をいただきます。両地区の皆様、どうぞよろしくをお願いします。

さて、今年度は、数年来懸案事項としていた会費・組織等について、いよいよ具体的な結論を出さなければならないと考えています。会員の皆様に島事研に関する意識調査を行い、各市町村で島事研の取組について考えていただく場を設定するなどして、平成28年度を「みんなで島事研について考える年」にしていきたいと思ひます。島事研の研究「学びの質の向上につながる学校事務の展開～教育活動へのより深い関わりをとおして～」が会員の皆様の日々の仕事に浸透し、満足する研修が十分に受けられ、県内はもとより全国の情報を共有している、そんな島事研を目指して、どうしていけばいいのか考えてみてください。

ところで、皆さんすでにご承知と思いますが、昨年12月に学校事務職員にとっては画期的というべき中教審答申が出されました。「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申)」です。島事研としても今後会員がどのようにチーム学校の一員として学校教育に関わっていけばよいのか、共に考えていかねばならないと思ひています。

「学校における仕事と責任の再配分のあり方とポジションの見直しを迫られ、学校事務職員自身がそれを受け入れられるのかが問われる」これは、一昨年の研究大会の講師にお招きした名城大学木岡一明教授のメッセージです。さらに、「そのためのバックアップを研究団体の取組に期待する」ともおっしゃっています。

これからの新しい時代に応える学校事務職員・研究会活動・島事研の在り方について、皆様の忌憚のないご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。島事研も会員の皆様にとって頼れる存在としての組織となるよう活動を進めていきたいと考えています。

研究部 ~平成31年度全事研岡山大会発表に向けて取組スタート~

研究委員会の取組

研究部長 岡田 由美

早いもので1学期も終わり、夏休みも半ばを迎えようとしています。夏休みといえど、日常業務、研修等で忙しい日々をお過ごしのことと思います。地球の反対側では、リオオリンピックが開催されています。4年に一度のオリンピック、リアルタイムでテレビ観戦するには、少々無理して早起きすることになりますが、日本を応援して盛り上がりたいたいですね！



さて、島事研では、今年度より研究委員会を立ち上げ、全事研岡山大会研究発表に向けての取組を本格的にスタートさせました。研究委員会は研究部が中心となり運営していきます。第五次研究中期計画を基盤とし、全事研山形大会で示される第9次研究中期計画に沿って活動を進めます。

今回の研究では、モニター地区を指定し、モニター地区との連携を軸に取組を展開していきます。モニター地区は出雲市・浜田市にご協力いただきます。

研究委員会からモニター地区へマネジメントシート等の活用について提案・依頼し、モニター地区で実施し得られた結果に基づき、データ・意見・感想・要望等を整理し提供していただきます。研究委員会ではそれらのデータを基に検証を行い、研究を進めていきます。具体的な提案内容・活用の流れについては、右の図のとおりですのでご覧ください。これらの提案につきましては、モニター地区の皆さんだけではなく、県内の全会員の皆さんにも順次提案していきますので、ご協力よろしくお願ひします。

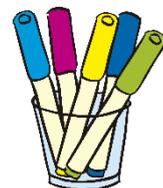
研究部としては、県大会に向けての発表支援を行っています。今年度の県大会では雲南市と浜田市が発表されます。7月には雲南市の皆さんに県大会発表について話し合いの場に呼んでいただきました。雲南市では、発表の機会を業務改善の場ととらえ、積極的に研究に向き合いながら、特色のある取組が進められています。

また、昨年度実施した調査の分析活動も進めています。調査の分析を深めることにより、研究を取り巻く現状を改善するための具体的な取組につなげたいと考えています。

研究部・研究委員会から提案することが、最初は負担に感じられるかもしれませんが。その負担は、私たちが成長していく、また能力が向上していく過程で必要なものにとらえていただき、ステップアップにつながる業務・研究として取り組んでいただきたいと思います。皆さんお忙しいとは思いますが、日常業務にひと手間かけることによって、小さなことから質を高める習慣・ルーティンを作っていきますか？

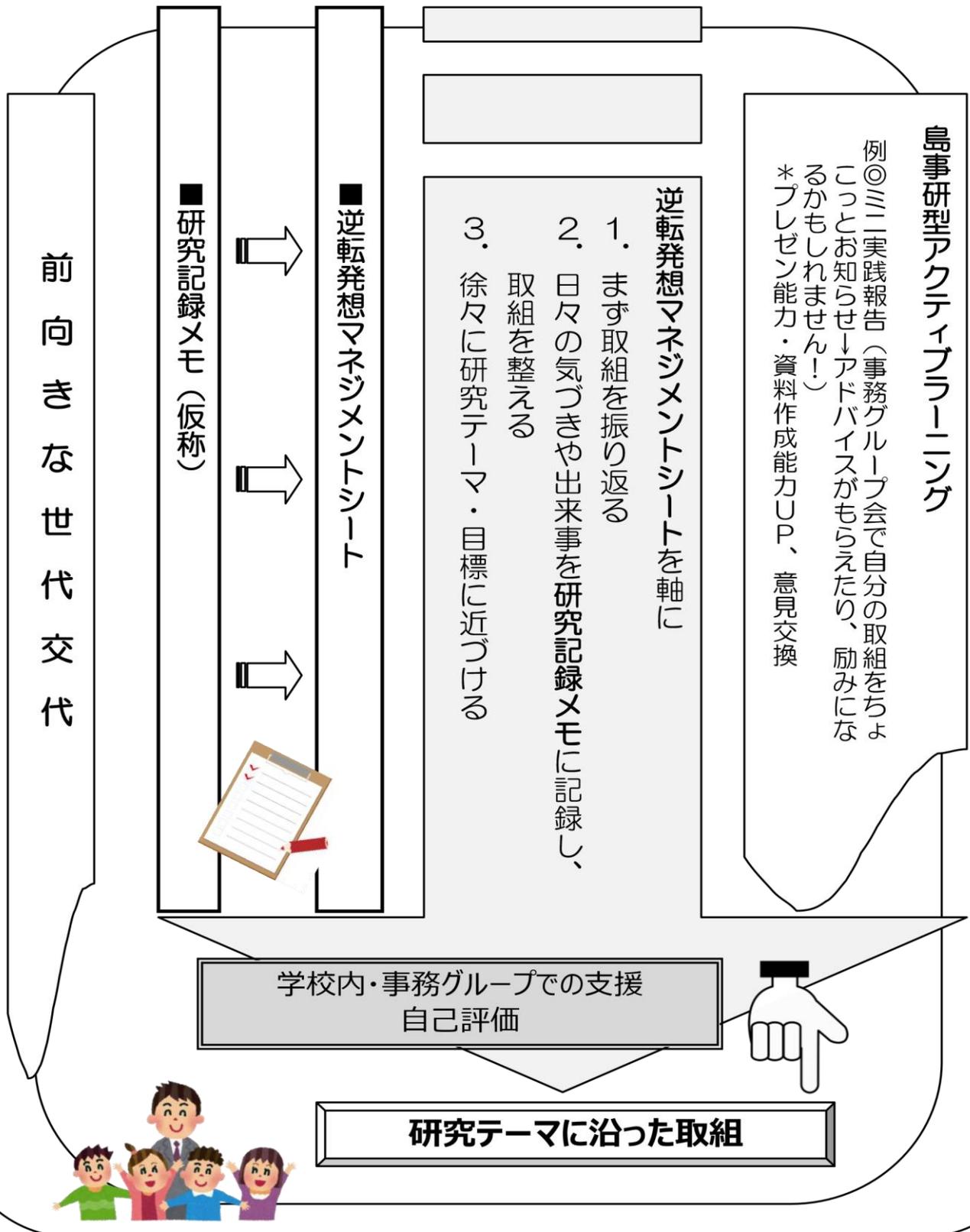
*** 2016年度研究部メンバー

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ◎部長 岡田由美 (出雲・湖陵中) | ○副部長 兒玉和寛 (仁多・横田中) |
| 木戸清治 (大田・池田小) | 佐伯圭一 (松江・宍道小) |
| 白瀬愛美 (浜田・三階小) | 奥井洸介 (出雲・田儀小) |
| ※副会長 勝部千恵 (松江・松江一中) | |



研究発表モニター地区説明資料

◎わくわく実践ナビ進化 Ver. (アプローチリスト・キャリアステージシート)



2 学期から取り組んでいただけるよう、準備を進めています。

Shimajiken 研究部

島事研組織等について

副会長
吉賀 孝則

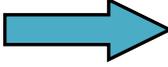
会員の皆様には、日頃から島事研の活動に対しましてご理解・ご協力をいただきありがとうございます。ございます。

さて、理事会並びに代議員会報告でお知らせをしておりますが、長年本会に助成をいただいております団体からの助成金が平成28年度限りで終了する旨連絡を受けました。これにより、平成29年度からは大幅な収入の減額となり、従来からの事業の運営が困難な状況となりました。

役員会では、ここ数年来、繰越金減少・全事研会費値上げ検討といった予算に係る不安材料から、会議の精選や旅費支給の見直し、代議員の選出人数の縮減といった島事研組織及び会則等の改正を含む、経費の削減を検討してきました。さらに、この度の連絡を受け、会費等の値上げを視野に入れた多方面からの検討をしたいと思っています。

つきましては、会員の皆様への島事研に対する意識調査を行い、調査結果を参考にしながら、今後の方針を検討し、島事研セミナー終了後に開催予定の第2回代議員会において審議(議決)をしていただきたいと考えております。ご協力よろしくお願いいたします。

【調査方法】

- ① 右に記載してあるQRコードを  携帯又はスマホで読み込んでください。

(PC の場合はこちらから

⇒ <https://reas2.code.ouj.ac.jp/reas/q/44959>)



- ② 項目にそってご回答いただき、最後に送信をしてください。

【調査報告】

- ① 調査開始 平成28年8月1日(月)
(※ QRコードについては、各市郡理事を通じて送信も行います。)
- ② 調査締切 平成28年8月31日(水)
- ③ 調査報告 平成28年11月11日(金) ※研究大会総会にて

【第2回代議員会】

- ① 平成29年1月27日(金) ※セミナー終了後



島根県教育庁総務課に勤務して

島根県教育庁総務課
安達 公一



平成27年4月から、教育庁総務課給与グループで、勤務しています。

主として、給与、諸手当、旅費、共済標準報酬に関する業務を日々行っています。

わずか1年余りが経過したところですが、現在の部署で最も学んだことは「学校事務職員は、なくてはならない職であり、非常に重要な業務を担っている。」という点です。

諸手当の認定権者であり、旅行の命令権者である所属長が、適正かつ迅速な判断を下すにあたって、学校で唯一の行政職である学校事務職員の事務処理は、高い正確性、法的な裏付けが求められており、万が一、遡っての是正が生じた場合、教育事務所や市町村教委、出納機関をはじめ、あらゆる部署へ影響が波及することを実感しています。

以前に事務グループリーダーの方から「学校事務職員のすべての業務は条例、規則等に基づいており、処理するにあたっては常に、その根拠を説明できなければならない。マニュアルや過去事例、感覚で処理している限りは行政職の業務であるとはいえない。」と教わりました。その言葉の重みを日々、痛感すると同時に、学校現場での自分がいかに受け身の姿勢で、浅い業務を行っていたかを認識させられました。

またとない貴重な経験をさせていただいており、今後も周囲の職員の方々が持つておられる仕事への冷静かつ熱い姿勢、高い意識、効率的な処理等を吸収し、また学校現場での勤務となったときには、事務職員の立場から、教育活動の充実へつながるよう還元したいと考えております。具体的には、学校の事務処理改善に向けた職員会議での提案、事務グループ会での共有等です。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

研修の ご案内

今年度は県大会とセミナーが出雲市で開催されます。また、昨年度島根県で行われた中国地区公立小中学校事務研究大会が米子市で開催されます。皆様、奮ってのご参加をお待ちしております。

第47回島根県公立小中学校事務研究大会

期日	平成28年11月11日(金)
会場	ビッグハート出雲



平成28年度中国地区公立小中学校事務研究大会(仮称)

期日	平成28年12月16日(金)
会場	米子コンベンションセンター BIG SHIP

第13回島根県学校事務セミナー

期日	平成29年1月27日(金)
会場	パルメイト出雲



邑南町の学校事務共同実施について



変わる(変える)学校事務

今から40数年前、私は学校事務職員と共に初任として海辺の学校に赴任しました。その当時、事務職員が配置される学校は少なく、その学校にとっては初めて迎える事務職員でした。それまでは事務の仕事はもっぱら教頭先生と一部の先生が分担されていたようですから、その事務職員は大変な歓迎を受けたように記憶しています。

卓上の計算機も、もちろんパソコンもなく、算盤とガリ版が主な事務用具です。給与もボーナスも現金渡しで、金融機関へは安全のために教頭先生が同行しておられました。当然ながら今どこの市町でも取り組まれています「事務の効率化・共同化」といったスローガンなど求められるはずもない時代でした。

それから40年、たった40年と言うべきか。その間、学校事務を取り巻く環境は大きく変化しました。事務機器の進化だけでなく、事務職員に求められるものも変わりつつあるように思います。

米国のある学者は、この数十年間で今ある職業の60%はロボットによって占められるだろうと予測しています。事務は、機器の進化と事務職員の工夫や努力によって効率化されていきます。縮まった時間をどのように活用するのか。学校の経営や運営にどのように参画できるのか、するのか。これからますます学校事務職員の真価が問われる時代が到来するのではないのでしょうか。新しい道を開拓する皆さんに大いに期待しています。

邑南町教育委員会
教育長 土居達也

邑南町の学校事務共同実施は、協議会が発足してから今年度で10年目を迎えます。発足当時から、学校事務関係者の連携・協力のもと、学校事務部門の強化、教育部門への支援、事務職員の相互支援を目標に掲げ活動を行ってきました。今年度も「組織と運用」の図のような体制で活動を展開しています。

3年前からは、町内2つのグループにそれぞれ事務リーダーが配置されましたが、西部グループの1校が事務職員未配置に、また東部グループに新規採用事務職員の配置もあったため、業務部を廃止しグループごとでの活動をメインに取り組んでいます。また、校長会、教頭会との合同会を毎年開催し、教委との連携のもと、規程の見直しや情報の共有・相談しやすい体制づくりにつながっています。

これから経験の浅い事務職員も増えていく中、年々事務職員へ求められる職務内容が高度化・複雑化してきていることから、個人の不安感・負担感を減らしていけるよう、手当等に関する確認作業を複数で行うことや、実務的な研修を行う体制を整えていく必要性を感じています。

推進者

邑南町立石見東小学校

上田 千恵美



平成28年度 邑南町学校事務共同実施連絡協議会 組織と運用

共同実施連絡協議会全体会

邑南町教育目標

- 「世界へも『羽ばたける力』の育成」
- ふるさとを知り、世界的に・地球的な視野に立った『ふるさと』と『自分』の未来につながる高い志
 - よりよい考えを創りだすために学んだ知識や必要とする新たな情報を集め、異質な考えと共に積極的に出会い、豊かな表現力をもってコミュニケーションできる力
 - 人とつながり、人をつなぎ、課題解決に向かい続ける意欲

目的

邑南町立小中学校における学校事務関係者が連携・協力して業務を行い、学校事務部門を充実・強化させることによって、学校の教育力向上に寄与する

テーマ

「つなごう」
“学校と学校”
“職と職”
“学校と教委”

【目標】

- 関係者の連携・協力により、事務職員未配置校への支援や業務の効率化・適正化を図るための取組を行い事務部門の強化を図る
- 学校運営へ財務領域から参画することにより、教育活動の円滑な実施を支援し教育力の向上を図る
- グループ等で経験の浅い事務職員等の研修や相互支援を行い、町内の学校事務の平準化・事務職員の資質向上を図る

事務部門の強化

- ◎町全体の事務の適正化
- ◎町全体の事務処理の効率化
- ◎教育委員会と連携を強化し、事務処理システムの総合改善

これまでの
取組

- ◎規程・マニュアル等の整備
- ・文書取扱規程
- ・個人情報等の管理規程
- ・財務取扱規程
- ・備品取扱規程
- ・公費外会計等取扱要領
- ・備品管理・文書管理ソフト
- ・修繕リスト&カルテ
- ・施設マップ
- ・机・椅子、入学用品購入品目等調査

会長（邑南町教育委員会教育長）

副会長（校長会代表） 2名

教頭会代表

共同実施推進委員会

推進者	1名
グループリーダー	東部1名、西部1名
グループサブリーダー	東部1名、西部1名
事務局	教委担当者1名、事務職員1名
全体会と実施会の企画、調整、共同実施だよりの発行	

共同実施会

教育委員会学校教育課

町内小中学校事務職員11名

- 学校事務・業務の改善要求
- 学校間及び学校と教育委員会の連絡・調整
- 共同実施の推進
- 校長会との連携（全体と中学校区別に実施）
- 教頭会との連携（年間を通して随時開催）

教育部門の支援

- ◎事務・会計等業務領域への支援
- ◎教育目標具現化のため主体的に学校経営に参画
- ◎教育部門との連携を図り、教育環境整備

これまでの
取組

- ◎教職員の事務負担軽減と支援
- ・学籍事務の手引
- ・就学援助事務の手引
- ・公費外会計事務の流れ、監査時のチェック項目ポイントについて
- ・統一の文書分類表に沿った文書等の保管
- ・各種ソフト提供（学校給食受払台帳等）
- ・マイクロパス・出品料取りまとめ
- ・事務だより（給与・服務関係）



東部グループ会		西部グループ会	
口羽小学校	瑞穂小学校	石見東小学校（2名）	矢上小学校
瑞穂中学校	高原小学校	市木小学校	石見中学校
羽須美中学校	阿須那小学校		

邑南町教育委員会学校教育課

臨時的任用事務職員支援
 施設修繕リスト&カルテの定着化/施設マップの作成促進
 グループウェアの活用検討/事務だよりの発行
 学校間の情報共有・意見交換

事務職員未配置校への事務支援
 採用後2年目事務職員研修/事務だよりの発行
 公費外会計取扱要領運用方針(案)の作成
 学校間の情報共有・意見交換

学校への教育力向上への効果

- 財務領域から学校運営に参画することにより**特色ある学校づくりの推進・支援**が可能となる
- 学校事務・業務の効率化や適正化を図ることにより**教職員が子供と関わる時間の確保**ができる
- 規程やマニュアル等の見直しにより**安定した学校事務機能の提供**ができる

人権 コーナー

めぐまれた職場

隠岐の島町立磯小学校 牧野 由花

私は、大学を卒業し学校事務職員として磯小学校で働くまでアルバイトをしたことがなかった。

そんな私にとって仕事や仕事仲間というのは未知の世界で、高卒で就職した友人から職場の人間関係や職場環境の悩みを聞いた時に、自分の将来への不安を感じた。

無事に地元である隠岐で就職が決まり、磯小学校に挨拶に行った時はとても驚いた。私が小中学校でお世話になった先生方がおられたからだ。磯小学校の去年の教職員数は15名だったが、その内、顔見知りの先生は6名。当時、担任だった先生、隣のクラス担任だった先生、教頭先生、他学年の担任だった先生。先生方も私のことを覚えてくださり、昔の自分が思い出されてすこし照れくさい気持ちでした。

久々の再会に驚き友人にこの話をすると、「やりづらくない?」と聞かれた。いまいち、その意味がわからなかった。私は知っている先生がいることは、とてもありがたいことだと思っていたからだ。

「職場」は、学校での「クラス」とも考えられる。職員全員で動き、話し合い、一生懸命働いている。今まで、友人から仕事の悩みを聞き思ったことは、大人になり「クラス」の人間関係を0から作り上げていくのはとても難しいということだ。もちろん得意な人もいると思うが、全員が得意なわけではない。友人が悩んでいる中、私は人間関係が「0からのスタート」ではない。私に教え、私を育ててくれた先生がいる。それはとても大きいことではないだろうか。私はめぐまれた職場で働いている。だが、この職場環境に甘えず、今はこの磯小学校の子どもたちの

ために何ができるのか先生方と一緒に試行錯誤していけたらと思う。



Vol.34 Nice to meet you!!



原作:千葉ひろみ 画:大橋幸子

【編集後記】早いもので情報部に入って5年目を迎え、3度目の編集後記担当になりました。その間、学校事務職員の方々を始め、多くの関係者の方々の原稿を拝読し、学校事務職員としての役割の重要性を改めて感じているところです。皆さまの原稿を読みながら、気づいたり、学んだり、ドキッとさせられたり…。広報誌作成に携われることに感謝をして、「爽」のように人と人をつなぎ、ともに成長していきたいものです。

(K.N)